

病虫害発生予察特殊報 第2号

作物名：りんご
病名：リンゴ葉巻萎縮病（仮称）
病原菌：Geniculosporium spp.

1 発生確認経過

平成20年7月、北信地方のりんご樹に、葉が裏側に湾曲して、葉身に黄化や褐点が発生し、成葉は黄褐～赤褐色を呈し萎縮する症状が発生した（図1）。発生樹の枝では皮目が肥大し、樹皮下に褐変が生じていた。県果樹試験場で原因究明を行ったところ、*Geniculosporium* spp. による新病害であることが判明した。本病の発生は国内初確認である。

2 病徴及び発生生態

- (1) 若葉では、葉が裏側に湾曲する葉巻症状を呈し、葉身には黄化や褐点を生じる（図2）。
- (2) 成葉では、黄褐～赤褐色を呈する症状が見られる場合もある。
- (3) 枝では皮目が肥大し、樹皮下には褐変が認められる（図3）。
- (4) 症状は樹内の一部分から発生し、年々拡大して樹全体が萎縮する。このような症状が進んだ樹では、主幹地際部に腐朽部位が認められる（図4）。
- (5) 本病原菌は木材腐朽菌の一種であり、付傷部から感染するものと考えられる。主な感染部位は、地際付近の主幹または地表面に露出した根部と考えられる。

3 診断法

- (1) 病徴から本病が疑われる場合、主幹地際部に腐朽部位が確認できれば、腐朽組織を採取し加湿状態に保ちながら観察する。組織上に灰色パッチ状の菌塊（図5）がみられ、顕微鏡下で分生子（図6）の形成が認められれば本病と診断される。
- (2) 初期では樹上に葉巻症状等があっても、腐朽部位が確認できない場合が多いが、同一あるいは近接園内に、発病樹が確認できる場合には本病の可能性が高い。

4 防除対策

- (1) 本病原菌は、地際付近の主幹または地表面に露出した根部の付傷部に感染することから、除草作業等による付傷に注意する。
- (2) 地際付近の主幹または地表面に露出した根部を付傷させた場合は、付傷部に塗布剤（トップジンMペーストまたはパッチレート）を塗布し、傷口のゆ合促進を図る。
- (3) 現在のところ、本病を対象とする登録農薬はない。
- (4) 本病の発生を認めた場合、発病樹は伝染源となるので、できるだけ伐採等の処分を行う。



図1 発生樹の病徴

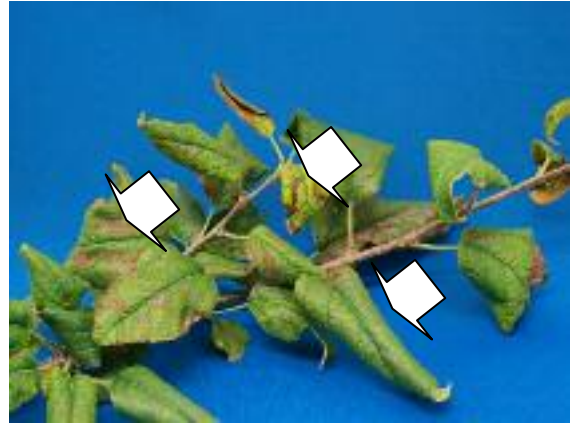


図2 葉の病徴
(裏側に湾曲 葉身の黄化 褐点)



図3 枝の症状
(上：皮目の肥大 下：樹皮下の褐変)



図4 主幹地際部の腐朽症状



図5 腐朽組織上に形成された
灰色パッチ状の菌塊



図6 分生子柄と分生子

長野県病害虫防除所
担当：宮島明博（所長）
木曾秀紀（担当）
TEL：026-248-6471（直通）
FAX：026-248-6473
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp